

# 夕刊文化

20世紀の女性哲学者、ハンナ・アーレントは著書「イエルサレムのアイヒマン」の中で、考えることを停止した凡庸な人間がユダヤ人の大量虐殺という人類最悪の罪を犯しうることを論証した。そんな闘うアーレントを主人公にしたお堅い映画「ハンナ・アーレント」が中高年を中心に人気を呼び、年明け後も全国で順次公開中のミニシアターで静かなブームが続いている。

## 遠みち・近みち

文化部 河野孝

アーレント自身、第2次世界大戦中にナチスの強制収容所を脱出し米国へ亡命したドイツ系ユダヤ人。「全体主義の起源」「人間の条件」など

され、イスラエルで行われた歴史的裁判をアーレントが取材する話を軸に展開する。ドイツの女性監督マルガレーテ・フォン・トロッタの作品で、

### 考えることで強くなる

を刊行し現代の政治思想に大きな影響を与えた。映画は、何百万のユダヤ人を収容所へ移送したナチス戦犯アドルフ・アイヒマンが逃亡先で逮捕

世界的に話題を呼んだ。昨年は「イエルサレムのアイヒマン」出版50年とあって日本でもアーレントに関する本が多く出た。「ハンナ・ア

レント〈世界への愛〉」を書いた哲学者の中山元氏は、「根源的な悪は、自分で考えないという誰でも陥りがちな習慣のうちから生まれてくる可能性がある」と自分で考えることの重要性を強調する。

「今こそアーレントを読み直す」の著者、仲正昌樹・金沢大学教授は「アーレントは民主主義において、目的志向的に考えるのではなく、物事の見方・視点を複数化してい

くことが大事だ」と説いているとし、二項対立的冷戦思考の枠組みが壊れた現代こそ、再評価されるべきだと見る。

映画後半、アーレントは「私が見たいのは、考えることで人間が強くなること。危機的状況にあっても考え抜くことで破壊に至らぬよう」と大学でのスピーチをこう結んだ。原発事故、特定秘密保護、領土問題でキナ臭い今こそ考える人間の英知を信じたい。

文学周遊の取材で訪ねた風景の写真特集を電子版に掲載しています。

(<http://www.nikkei.com/photo/>)